

# ごろうもんけんせつもち でんとうてきぎじゅつ 御楼門建設に用いられた伝統的技術

Traditional technique used in the construction of the Goromon Gate

누문 건설에 사용된 전통 기술

使用于楼门建设的传统技术

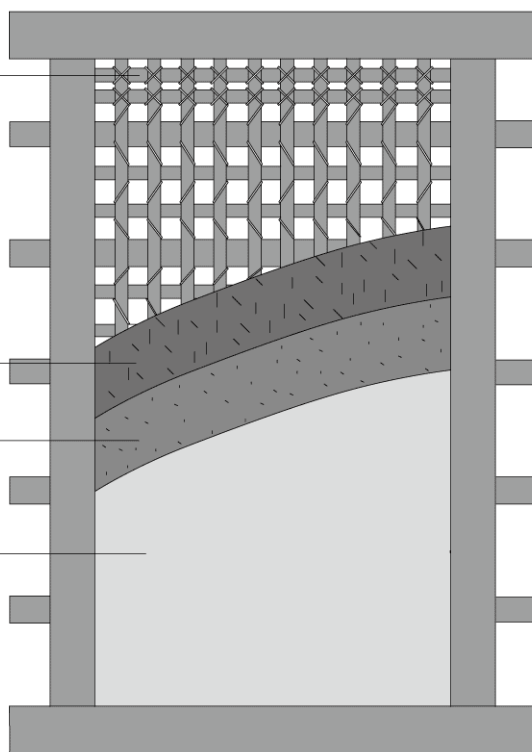
使用於樓門建設的傳統技術

## ごろうもん 御楼門の壁

御楼門の2階の外壁はなまこ壁でした。なまこ壁とは、日本伝統の壁塗り様式のひとつで、土壁になまこ瓦を並べて貼り、なまこ瓦の目地に漆喰しっくいをかまぼこ形に盛り付けて塗る技法です。保温性、保湿性、防火性、耐水性に優れていることが特徴です。

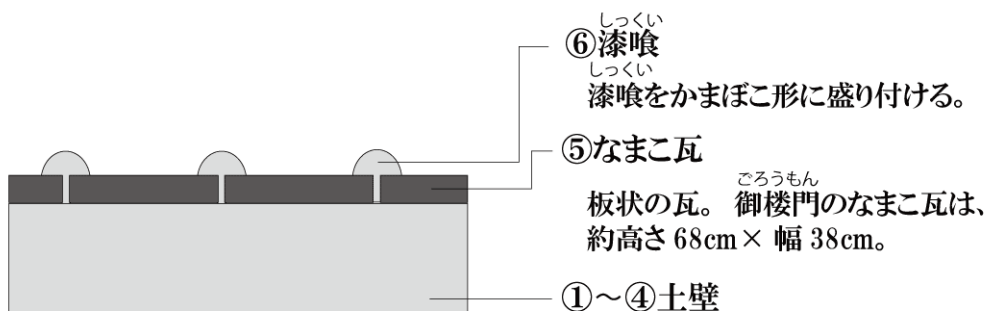
## 土壁

- ①小舞竹こまいたけ  
竹を縄で編んだ格子状の面。  
土をつける下地。
- ②荒壁  
土にワラスサを入れて捏ねたものを  
小舞竹に塗る。
- ③中塗り  
砂の入った中塗りの土を荒壁の上に  
塗る。
- ④仕上げ  
漆喰しっくいなどで表面を仕上げる。



### ▲土壁の概要

## なまこ壁



### ▲なまこ壁の断面

## 屋根と瓦

御楼門の屋根は古写真から本瓦葺きの屋根だことが分かります。この屋根は、丸瓦と平瓦の2種類まるがわら ひらがわらの瓦を組み合わせて葺きます。特に、軒のきに設置する文様の入った瓦については、軒丸瓦のきまるがわら、軒平瓦のきひらがわらと呼びます。発掘調査で出土した瓦を元に、御楼門の軒丸瓦である軒巴瓦のきともえがわら（巴紋の入った軒丸瓦）、軒平瓦のきまるがわらである唐草瓦のきひらがわら（唐草紋の入った軒平瓦）を製作しました。

## 鬼瓦

鬼瓦おにがわらとは、瓦屋根の棟の端に据えられる装飾瓦で、建物の守り神まも がみとして設置されました。御楼門周辺ごろうもんの発掘調査で出土した鬼面瓦おにむねをもとに制作し、大棟くんだりむねや降棟すみむね、隅棟などの側端に葺いていきました。

## 鯨

鯨しやちは屋根の大棟の両端に取り付ける装飾で、鬼瓦同様守り神おにがわら まも がみとして設置されました。鹿児島（鶴丸）かごしま つるまる城とその城下町では火災が多く、火除けのために置かれていたことが分かっています。

御楼門の鯨は、江戸時代後期に行われた補修の際に、「唐金（青銅製）のものに掛け替えた」との記録が残っていることから、平成、令和の御楼門建設にあたって、青銅製としました。



▲明治5（1872）年の御楼門写真ごろうもん